ＪＲ連合
ＮＥＷＳ
ＪＲ産業に集うすべての仲間のＪＲ連合への総結集を！！
2026 年度
Ｎｏ．３１
２０２６年１０月２６日
日本鉄道労働組合連合会

ＪＲ連合 第 14 回安全シンポジウム開催

JR産業全体の安全意識をさらに高めていく！

10 月 21 日、ＪＲ連合は東京都内で「第 14 回安全シンポジウム」を開催し、ＪＲ連合加盟単組をはじめ、連合、交運労協、友誼産別、ＪＲ各社から WEB を含め総勢約 250 名が参加した。

本シンポジウムでは「ＪＲ産業全体の安全意識をさらに高めるためには」をテーマに掲げ、グループや協力会社を含め、より一層安全なＪＲ産業を創る決意を共有した。

ＪＲ連合 上村会長

冒頭、ＪＲ連合上村良成会長は主催者を代表し、「福知山線列車事故以降、安全は会社だけでなく、現場で働く組合員自身の手でつくるのだ、という強い思いで安全性向上に努めてきた。しかし、今なお死亡労災が後を絶たず、危機的な状況にある。社員の命を守れない会社に、お客様の命は守れない。世界で最も安全なＪＲ産業の実現に向け、積極的な参画を要請する」と挨拶した。

ＪＲ連合 宮野局長

第１部ではＪＲ連合の宮野勇馬企画局長から、これまでの安全の取り組みと、策定中の「安全指針（2026 改訂版）」の報告と解説を行い、積極的な活用を要請した。

労働科学研究所
松田特別研究員

第２部では、大原記念労働科学研究所 松田文子特別研究員から「安全に関する取り組みの効果的な教育方法について」と題して、基調講演をいただいた。

第３部のパネルディスカッションでは、パネリストに航空連合坂元慎平事務局長、ＪＲ東海ユニオン吉本大輝業務部長、ＪＲ西労組の中村康雄業務部長、新生テクノス労組山田知洋執行委員長を加え、松田特別研究員とともに、多くの労災がグループ労組や協力会社で発生していることを踏まえ、ＪＲ産業全体の安全意識をさらに高めるために労働組合が果たすべき役割について、議論を深めた。

パネルディスカッションのパネリストの皆様

ＪＲ連合 中村副会長

最後に、ＪＲ連合中村鉄平副会長（ＪＲ四国労組執行委員長）が、安全の主役としての労働組合の重要性を述べ、閉会した。